

# **2022年度日本農業史学会・学会賞候補業績募集および 2023年研究報告会(個別報告募集)のお知らせ**

会員各位

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日本農業史学会より標記の件について、以下の通りお知らせします。

## **(I) 2022年度日本農業史学会賞(学会賞・奨励賞)候補業績の募集**

以下の通り、2022年度日本農業史学会賞(学会賞・奨励賞)候補業績を募集いたします。

[学会賞] (1) 対象者：優れた研究業績を公刊した40歳以下の会員(研究業績刊行時点)  
(2) 対象業績：過去2年間(2021年1月～2022年12月)に公刊された著書およびそれに準ずるもの

[奨励賞] (1) 対象者：将来の発展が期待される研究業績を公刊した40歳以下の会員(研究業績刊行時点)  
(2) 対象論文：過去2年間(2021年1月～2022年12月)に公刊された論文およびそれに準ずるもの。

[応募方法]: 本会会員の推薦によります(著者自ら推薦することを妨げない)。推薦に当たっては、所定の推薦書を付してください。一度対象となった業績の再応募は認められませんが、同一人物でも別の業績であれば差し支えありません。

推薦書および対象となる業績(著書の場合1部、論文の場合5部(コピーでも可))を事務局までご送付下さい。締切りは、**2023年1月31日**といたします。

「推薦書書式」は、学会HP(学会規約→日本農業史学会賞表彰規程細則→「別添書式(学会賞推薦書)」または「別添書式(奨励賞推薦書)」)からダウンロードしてください。

<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/institution.html>

学会賞推薦書：<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/doc/suisenshosiki1.doc>

奨励賞推薦書：<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/doc/suisenshosiki2.doc>

なお、学会賞と奨励賞はそれぞれ別の書式を使用することになります。ご注意ください。

## **(II) 2023年日本農業史学会研究報告会に関するお知らせ**

2023年の日本農業史学会大会は、久しぶりに**対面方式**にて行います。ただし午後からの大会シンポジウムはZoomにて中継することを予定しています。(懇親会の開催は未定です。)

記

日時：**2023年3月20日(月)**

午前：個別報告、午後：大会シンポジウム

\*例年のような年度末ではなく3月中旬の開催となりますのでご注意ください。

会場：**法政大学市ヶ谷キャンパス**(富士見ゲート・G501/G502 教室)

## ①個別報告の募集について

個別報告をご希望の方は、下記要領にて電子メール(ないし郵便)で学会事務局までお申し込みください。

1) 必要書類：申込用紙（氏名、所属、報告タイトル、連絡先、メールアドレス）

および**報告要旨(1,000字以内)**。書式は任意です。

2) 申込期間：2022年12月19日（月）～**2023年1月31日(火)**。

3) 申込先：学会事務局まで。

メールの場合：[office@agrarian-history.sakura.ne.jp](mailto:office@agrarian-history.sakura.ne.jp)

郵送の場合：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻比較農史学分野気付

日本農業史学会事務局まで

なお、報告時間は最長で50分（報告40分、質疑応答10分）を予定しています。（ただし報告者数が多い場合には短縮されることがあります。あらかじめご了承ください）。

会員各位の積極的な応募を期待しております。大会プログラムは2月上旬にメールにて改めてご案内する予定です。

## ②2023年日本農業史学会シンポジウム

### 戦後沖縄農業・農村史研究の再検討

オルガナイザー：小濱武（沖縄国際大学）

#### 【趣旨説明】

沖縄が日本本土へ「復帰」して、50年が過ぎた。沖縄島北部の辺野古への新基地建設をめぐる状況に象徴される、いわゆる「沖縄問題」が据え置かれ続ける状況と相まって、近年の戦後沖縄史研究の興隆は著しい。オーラルヒストリーの蓄積や沖縄県公文書館の設立以降の史資料環境の拡充にも支えられながら、多くの成果が生まれている（例えば『沖縄県史 各論編7 現代編』の刊行）。そのなかで「復帰」前のアメリカ統治下で経済社会がどのように再編されたのかという問いは、「復帰運動」への接続、冷戦体制下でのアメリカの文化政策の影響、同時代における日本本土の復興・高度成長の意義の問い直し、旧帝国圏の戦後史の展開との関連などの論点を含みつつ、究極的にはそれが現在にどうつながるのかという視点から、その解明が一層求められている。

本シンポジウムでは、上述の問いを、農業・農村史の領域で検討する。むろん、この作業は、沖縄史研究に資するだけでない。第1に、農業・農村史研究において、戦後史についての研究蓄積は、戦後改革期のそれを除くと、未だに浅いように見える。比較的戦後史研究の豊富な蓄積のある沖縄は、戦後農業・農村史研究のあり方について考える事例となる。第2に、沖縄史研究の特徴の一つは、今日の沖縄をめぐる政治社会状況との緊張関係の中で生み出されてきたことである。農業・農村史研究が今日における政治的・社会的課題にどう対峙しうるのかを検討する上

での基点となることができるだろう。第3に、沖縄戦とその後のアメリカ軍による暴力は、人びとの生存を絶えず危機にさらしてきた。農業は食の生産の営みであり、農村は人びとの生活を繋ぐ場である。沖縄を基点とすることで、生存という問題から農業・農村史を捉える上で新たな視角が提示されることも期待したい。

ただし、残念ながら、戦後沖縄農業・農村史研究は、それほど多くの蓄積があるわけではない。そこで、シンポジウムの共通テーマとしては、「戦後のアメリカ統治期を中心として、重層的に展開された沖縄統治のありようを、農業・農村に生きる人びとの視点から再検討する」という程度にとどめ、それぞれの論者が、重要だと考える論点を取り上げることにした。

なお、日本農業史学会では、2007年に「近代沖縄農業史の再検討」と題したシンポジウムを開催した。その際は「琉球処分」以降の戦前期を対象としていたが、今回は戦後期を対象としている。前回シンポジウム以降の沖縄史研究の進展は目覚ましく、それらの成果を踏まえての今回シンポジウムである。

【報告者とコメンテーター】 (報告タイトルはいずれも仮題です)

趣旨解題：小濱武

報告者： 鳥山淳（琉球大学） 「日本政府による対沖縄政策」

比嘉理麻（沖縄国際大学） 「豚たちの戦後史」

安里陽子（岐阜工業高専） 「農業実習生派遣事業」

小濱武（沖縄国際大学） 「USCARの農業政策」

コメンテーター：調整中

日本農業史学会事務局

office@agrarian-history.sakura.ne.jp

郵便振替口座 00180-9-20117

(連絡先) 〒606-8502 :

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻

比較農史学分野気付

Tel : 075-753-6184(足立)、Fax 075-753-6191